

I 部会再編をめぐる課題と背景

本学会では、1989 年に理論部会、放送部会、ジャーナリズム部会の 3 部会が設置されて以降、メディア環境や学会そのものの変化のなかで、新たな部会が創設されてきた。現在では、理論研究部会、ジャーナリズム研究・教育部会、放送研究部会、メディア史研究部会、メディア倫理法制研究部会、メディア文化研究部会、ネットワーク社会研究部会、ジェンダー研究部会の 8 部会編成となっている。

研究部会の活動が活発に展開されてきたことで、学会の研究活動に厚みや広がりが生み出されてきた一方、部会編成のあり方全般を広く見直す機運はあまり見られなかった。そのなかで、部会ごとのテーマ・領域の重複や欠落、部会運営の人的な偏り、理事・幹事の負担の問題が顕在化するようになった。部会再編については、37 期理事会で当時の研究活動委員会より提起がなされ、現 39 期理事会にて問題点の共有が進められるようになった。具体的な論点は以下のとおりである。

□ 現状の問題点

[テーマ・領域]

- (1) テーマや領域が複数の部会にまたがって重なることがあり得る
- (2) 逆に、現状の部会構成ではあまり扱われないテーマもあるのではないかと(経営学、産業、IT など)。新たなメディア環境・産業をきちんと扱う必要性もあるのではないかと
- (3) 実務者(新聞・放送・出版・広告など)の問題関心をどのように取り入れるか。専門研究者の問題関心とどう架橋するか。
- (4) 部会構成をどの程度固定化するのがいいのか。近年の動向を柔軟に汲み取れる部会のあり方を模索する必要性
- (5) 部会相互の連携が取りやすいとは言えない
- (6) 部会編成の問題というわけでもないが、メディア研究のなかでも領域横断的な相互理解や対話がやや難しくなりつつある面もあるのではないかと

[理事・幹事の担当に関して]

- (1) 理事編成次第では、現行の部会すべての研究領域を十全にカバーできるとは限らない。
- (2) 幹事の人選は、総じて担当理事に近い会員が候補に挙がることが多い。そのことのメリットも大きい一方、部会で扱うテーマや領域に偏りが生じる可能性もある。
- (3) 逆に、幹事を務めたいと思っている会員が入れないこともあり得る。

[部会の実務・運営、その他]

- (1) WS や研究会を企画・運営する際の負担の問題(その時々部会編成や幹事の状況にも左右される)
- (2) 部会起案のWS や研究会だけではなく、それ以外の会員による起案をどう取り込むか
- (3) 院生レベルでの研究交流・懇親の場を学会として、どう作っていくか

II 検討の方向性と再編案

□ 2024 年理事会以降の検討内容

以上の点をふまえたうえで、2024 年 5 月理事会では以下の方向性で部会のあり方の検討に着手することが承認された。

- ・部会編成を現行よりも大きな括りにし、部会数をやや減らしてもいいのではないかな。
- ・ただし、新たな部会編成のもとでも、少なくとも現状の部会が扱う領域は網羅できるようにする。
- ・合わせて、現状の部会構成では十分に扱えていないテーマも、それなりに扱える部会構成にする。
- ・担当理事・幹事でない一般会員の関心や参加意欲をどう汲み取り、引き出すか。その点についても検討を進める。
- ・担当理事・幹事の負担をなるべく減らす（WSや研究会の登壇者というよりは、企画・調整業務をメインにする）。

研究活動委員会では、この方向に沿って検討を進め、2024年春季大会では関連するポスターセッションとワークショップを実施し、一般の会員からも広く意見を集めることに努めた。そこでは、院生や若手の研究交流の促進、メディア実務とアカデミズムの架橋、メディア環境の変化に対応した学会研究活動のあり方、ジェンダー・ダイバシティの問題への取り組みなどについて、議論がなされた。

□研究活動体制再編の方向性

これらをふまえ、研究活動委員会では次の方向での研究体制の再編案を取りまとめるに至った。

- ・現状の「研究活動委員会 - 研究部会」という二層構造を、「研究活動委員会 - 分科会 - プロジェクト」の三層構造とする。分科会は複数のプロジェクトを統括するものとし、その数は各分科会につき2～3程度を目安とする（過度に増えて細分化しすぎないようにする）。
- ・「プロジェクト」は必ずしも固定化されたものではなく、各期の分科会担当理事が中心になって、その構成や数、メンバーを検討する。各プロジェクトは、従来の部会と同様、大会WSや研究会の企画・運営を行うが、その統括は分科会が担うものとする。ただし、必要不可欠な領域がプロジェクトとして漏れることのないよう、分科会、研究活動委員会、理事会にて慎重に検討する。
- ・プロジェクトのメンバー（幹事）には、原則的に理事以外の会員を充てることとし、上記の企画・運営を主に担う。個々のプロジェクトのメンバーの人数は、従来の部会より少数とする。また、登壇者を兼ねることも原則的に避け、会員から広く登壇者を探すこととする（幹事の負担を軽くすると同時に、多くの会員が広くさまざまなプロジェクトに関わることができるようにするため）。
- ・ジェンダー／ダイバシティに関する分科会も設け、学会としてこれらの領域に取り組む姿勢を可視化させる。
- ・それとは別に、会員からのプロジェクト（一期2年にわたって継続される研究プロジェクト）の起案を受け付ける。そのプロジェクトは、科研の共同研究のようなものではなく、新たな研究領域・方法論を拓く、もしくは既存の分科会 - プロジェクトではカバーしにくい研究動向を拓くものとする。これについては、研究活動委員会（担当理事2名程度と委員3名程度で構成）で募集や採否決定の実務を行う（ただし理事会での承認を要する）ものとする。なお、公募プロジェクトのメンバー（幹事）構成は、原則的に他の委員会・プロジェクトに名を連ねていない会員とする。
- ・分科会の数は、下記「公募」「ジェンダー／ダイバシティ」の分科会を除き、3～4つ程度とし、その数があまり増えすぎないようにする。分科会構成については、おおよそ5期（10年）程度を目安に、必要に応じて見直すことを可とする。その際には、あくまで学会全体で扱う領域を見渡し、過不足や重複がないか、もしくは分科会としては細分化されすぎているかどうかを見極めるものとする。
- ・なお、分科会編成次第では、なかにはプロジェクトとしての収まりが必ずしも良くないテーマもあり得る。それについては、当面は公募プロジェクト、もしくは領域的に近い分科会傘下のプロジェクトで扱いつつ、そのテーマをメディア研究としてどう広げるかについて検討を重ね、次の分科会編成の見直しの際に、改めて位置づけを検討する。

□分科会編成

以上をふまえ、分科会構成は、(研究対象というよりは)ディシプリンや研究手法にゆるやかに基づき、「理論」「社会」「文化」「歴史」「ジェンダー／ダイバシティ」(および「公募プロジェクト」)とする。そこでは、学会の研究活動をメディア研究に閉じるのではなく、社会学、文化研究、情報学、歴史学、政治学、法学、経済学、経営学、教育学、心理学等にも開く姿勢を可視化することを意図している。他学会・周辺領域の院生・研究者がメディア学会に関心を寄せることで、本学会のさらなる活性化も期待される。

なお、分科会の下部を構成するプロジェクト案はあくまで例であり、各期理事会(分科会)が研究動向を見渡しつつ、柔軟に設定するものとする。

- a. **理論研究分科会**：メディア・コミュニケーション・ジャーナリズム関連の理論研究の促進 ※以下は例
メディア理論プロジェクト(社会理論、文化理論、コミュニケーション理論などを含む)
ジャーナリズム理論プロジェクト(関連する政治理論などを含む)
倫理・法制プロジェクト など
- b. **社会研究分科会**：社会科学的なアプローチでの研究活動を促進 ※以下は例
ジャーナリズム研究プロジェクト(新聞・放送から Web メディアまで、おもに「実践」面：政治学などを含む)
コミュニケーション研究プロジェクト(SNS、実証研究など)
産業・技術研究プロジェクト(社会との関わりを念頭に置きつつ、経済学・情報工学等の近接領域なども含む)
- c. **文化研究分科会**：文化研究・教育学などのアプローチでの研究活動を促進 ※以下は例
ポピュラー文化研究プロジェクト
メディア・リテラシー研究プロジェクト(教育学関連も含む)
- d. **歴史研究分科会**：歴史研究のアプローチでの研究を促進 ※以下は例
メディア史研究プロジェクト(文化史、ジャーナリズム史、思想史、歴史社会学等を含む)
産業・技術史研究プロジェクト
- e. **ジェンダー／ダイバシティ研究分科会**
- f. **公募プロジェクト統括の分科会**：研活担当理事および同委員が募集・採否検討・統括を担う。

□WS・研究会の頻度・開催数など

WSや研究会のあり方については、従来のやり方を踏襲しつつ、今次の再編をふまえて、以下のとおりとする。

- ・各プロジェクトは、WSを年に1回、研究会を年に2回ほどの開催を目途とする(公募プロジェクトを含む)。
- ・そのうえで、大会時(春秋)では、分科会ごとに1つはWSを開催できるようにする。したがって、各分科会は傘下のどのプロジェクトが春もしくは秋にWSを開くのか、事前に調整しておく。ただし、ジェンダー／ダイバシティ分科会や公募分科会については、傘下のプロジェクト数などを勘案し、柔軟に検討する。
- ・以上をふまえ、プロジェクト起案のWSの数は、各大会につき、4～7件程度を目安とする(一大会あたりのWS数(一般会員応募も含む)の目安は9件ほど)。